

研究成果発表会

日時 平成23年6月7日(火) 午後2:30～

会場 富山国際会議場2F 多目的会議室

お申込方法 ハガキ、FAX、電話、E-mailで5月27日(金)までにお申込ください。
なお、その後も随時お申込を受付いたします。

お申込
お問い合わせ 富山第一銀行奨学財団事務局 〒939-8212 富山市掛尾町626番地
TEL・FAX 076-422-2829 E-mail:tomiken@micnet.ne.jp



富山国際会議場 入場料無料

A会場 201号室

- | | |
|-------------|--|
| 14:30～14:40 | 開会挨拶 |
| 14:40～15:00 | 富山めまい診療の地域連携・支援推進プロジェクト
富山大学附属病院 講師 伏木 宏彰 |
| 15:00～15:20 | 高齢者の地域生活支援におけるケアマネジメント
—実践シートの検討から—
富山国際大学子ども育成学部 講師 相山 馨 |
| 15:20～15:40 | 表面筋電位信号からの動作予測方法の検討
—一人-機械間インターフェースへの応用に向けて—
富山高等専門学校専攻科 准教授 石田 文彦 |
| 15:40～15:50 | 休 憩 |
| 15:50～16:10 | 杉谷古墳群の調査と「邪馬台国の時代」の富山に関する研究
富山大学人文学部 教授 黒崎 直 |
| 16:10～16:30 | 酸化ストレスによる血管障害に対するクマザサエキスの効果
富山大学医学薬学研究部(薬学) 准教授 恒枝 宏史 |
| 16:30～16:50 | 日本企業におけるコース・リレーティッド・マーケティングに関する研究
富山高等専門学校国際ビジネス学科 准教授 清水 真 |
| 16:50～17:00 | 閉会挨拶 |

B会場 202号室

- | | |
|-------------|---|
| 14:30～14:40 | 開会挨拶 |
| 14:40～15:00 | 子どものおどけ行動の発達
富山短期大学幼児教育学科 講師 広瀬 美和 |
| 15:00～15:20 | マイクロ流路における液体の流れ挙動制御手法の開発
富山県立大学機械システム工学科 助教 畠山 友行 |
| 15:20～15:40 | 日本とオランダにおけるチューリップ球根の生産費
富山大学経済学部 教授 新里 泰孝 |
| 15:40～15:50 | 休 憩 |
| 15:50～16:10 | 二次加工性が良好なマグネシウム合金材料の開発
富山大学理工学研究部(工学) 准教授 会田 哲夫 |
| 16:10～16:30 | 富山県の観光ボランティアガイド活動が果たす観光の質的向上
富山国際大学現代社会学部 准教授 斎藤 敏子 |
| 16:30～16:50 | ビートからテンポを取得するメトロノームインタフェースの開発
富山県立大学知能デザイン工学科 助教 本吉 達郎 |
| 16:50～17:00 | 閉会挨拶 |



開催にあたり

公益財団法人 富山第一銀行奨学財団 理事長
金岡 純二

当財団では昭和34年の財団設立以来行っている学生への奨学金の給貸与の他に、昭和59年から学術研究活動の支援を目的として、富山県内の高等教育機関へ研究助成活動を行っております。

当活動は、平成22年度までの27年間で、件数661件・金額2億7千890万円となっております。

この度、平成22年度に研究助成を受けられた先生方の「研究成果発表会」を開催致します。当発表会は、研究内容とその成果を企業の方や地域の皆様にご紹介するもので、今回で5回目の開催となります。

皆様のご来場を心からお待ち致しております。

当財団は、昨年10月公益財団法人の認定を受けました。今後とも育英事業及び研究助成事業を拡充し、人材育成と教育振興に協力致したいと存じます。

主催／公益財団法人 富山第一銀行奨学財団
共催／富山大学・富山県立大学・富山国際大学
富山短期大学・富山高等専門学校

後援／富山県・富山市
財団法人富山県新世紀産業機構

研究成果発表会プログラム・概要

A会場・201号室

■ 発表者	■ 題目	■ 概要
富山大学附属病院 講師 伏木 宏彰	富山めまい診療の地域連携・支援推進プロジェクト	めまい・ふらつきの主因である内耳・前庭機能障害の有病率は40歳以上では3人に1人と推定されている。地域に密着しためまい診療体制を構築するために、県内耳鼻科医のめまい診療の現状と問題点を調査・分析し、診療所における前庭障害診断法のベストミックスを検討した。
富山国際大学子ども育成学部 講師 相山 馨	高齢者の地域生活支援におけるケアマネジメント —実践シートの検討から—	現在のわが国のケアマネジメントは、活用される社会資源がフォーマルな介護保険サービスに偏向し、生活全体を支援するものにはなっていない。そこで、インフォーマルな社会資源の活用を含めたトータルな社会資源の活用を可能にする新たな実践シートの作成、試行、検証により、利用者の生活全体を支えるケアマネジメントの展開方法について検討した。
富山高等専門学校専攻科 准教授 石田 文彦	表面筋電位信号からの動作予測方法の検討 —人-機械間インターフェースへの応用に向けて—	利用者にとって自然、かつ、負担の少ない人-機械間のインターフェースの実現を目指す。特に、利用者にとって違和感のない機械操作のため、自然な動作中の生体信号から機械への操作信号へ変換処理方法を脳が用いる情報表現方法に着目して探求する。
富山大学人文学部 准教授 高橋 浩二直 研究代表者 黒崎 直 教授	杉谷古墳群の調査と「邪馬台国の時代」の富山に関する研究	今まで謎であった杉谷6号墳の発掘を実施し、約51m×30mの規模の方墳であることを突き止めた。「邪馬台国の時代(3世紀)」から「大和政権の時代(4世紀)」の富山平野の王の墓と考えられるが、築造時期は依然謎である。富山の歴史上重要な杉谷6号墳と杉谷古墳群について、他の遺跡と対比しながら研究の見通しを示す。
富山大学医学薬学学部(薬学) 准教授 恒枝 宏史	酸化ストレスによる血管障害に対するクマザサエキスの効果	メタボリックシンドロームおよび糖尿病では、酸化ストレスの増加により動脈硬化が進展する。本研究では、酸化ストレスによる血管内皮細胞の機能異常に対して、クマザサ葉エキスおよびその成分コエンザイムQ10が改善効果を示すことを見出した。動脈硬化の予防の観点から、これらの効果の意義について提言を行いたい。
富山高等専門学校国際ビジネス学科 准教授 清水 真	日本企業におけるコース・リレーティッド・マーケティングに関する研究	本研究では、今後のCSRの展開で重要視される戦略的アプローチとしてのコース・リレーティッド・マーケティング(以下:CRM)における我が国の展望と可能性を先行研究およびヒアリング調査をもとに探究した。特にここでは、我が国におけるCRM普及の現状を明らかにするとともに、CRM導入の効果、展望、そして課題を考察した。

B会場・202号室

■ 発表者	■ 題目	■ 概要
富山短期大学幼児教育学科 講師 広瀬 美和	子どものおどけ行動の発達	幼児の社会的葛藤解決場面では、注意を転換させたり、緊張状態を緩和し遊びへと移行させるおどけ行動がみられることがある。おどけなどのユーモアの成立には、社会的認知能力の発達が関係していることが知られている。本研究では、幼稚園での自由遊び場面における自然観察により、その関係調整行動の発達の变化を質的に検討する。
富山県立大学機械システム工学科 助教 島山 友行	マイクロ流路における液体の流れ挙動制御手法の開発	微量の血液診断チップ開発のためには、マイクロ流路における血液の制御が必須である。本研究では、数値解析を用いたバイオチップ開発のため、実験と解析を比較し、マイクロ流路内の液体挙動が数値解析で表現可能かどうかを検討した。また、空気圧によって、マイクロ流路内の液体流動を制御する手法を検討した。
富山大学経済学部 教授 新里 泰孝	日本とオランダにおけるチューリップ球根の生産費	近年、日本のチューリップ球根生産は急激に減少し、ピーク時(1993年)の3分の1になった。これは長期経済停滞による需要減少と、安価なオランダ産球根の輸入増大による。2009年に日本とオランダにおいて球根農家の面接調査を行った。経営条件を比較し、両国のチューリップ球根生産費の特徴を明らかにする。
富山大学理工学工学部(工学) 准教授 会田 哲夫	二次加工性が良好なマグネシウム合金材料の開発	マグネシウム合金の密度は1.74Mg/m ³ とアルミニウム合金の2/3で構造材料の中で最も軽量であることから、車椅子や杖などの高齢化社会に必要不可欠な材料です。汎用のマグネシウム合金に対して、既存の押し出し加工機に由来から知られている強加工技術とは異なる特殊な加工を施し、二次成形性が良好なマグネシウム合金を開発した。
富山国際大学現代社会学部 准教授 斎藤 敏子	富山県の観光ボランティアガイド活動が果たす観光の質的向上	観光の個別化・地域化が進行する中で、観光ボランティアガイド活動が観光の質的向上を促し、観光振興に寄与すると考えられる。この観点から富山県の観光ボランティアガイドの実態調査および先進事例として広島県の調査を行った。両者の比較・検討を行い、課題について考察する。観光ボランティアガイドを新たな観光の活動主体とらえ、その活性化を図るためにインタープリテーションをも視野にいれた活動あるいは人材育成が必要と考える。
富山県立大学知能デザイン工学科 助教 本吉 達郎	ビートからテンポを取得するメトロノームインターフェースの開発	従来のメトロノームは、テンポ設定のために目盛り操作を必要とし、ユーザが自身の演奏テンポを調べるには手間がかかっていた。これは視覚障害者に対する操作性を低下させる要因にもなっていると考えられる。本研究では、楽器演奏や歌唱のテンポにあわせた腕ふり操作を用いてメトロノームのテンポを設定する新たなデバイスの開発に取り組んだ。

富山第一銀行奨学財団研究助成セミナー 研究成果発表会

申込書 FAX:076-422-2829

5月27日(金)までにお申込ください。なお、その後も随時お申込を受付いたします。

会社名			
住所	〒 —		
所属部署	TEL ()	役職	FAX ()
参加者氏名			

※記載いただいた「氏名」「住所」「電話番号」等の個人情報は、今回の発表会の運営のみに使用し、それ以外の目的には使用いたしません。